



その 234

## クローズアップ21

「自然と人間との調和」を基本理念に事業展開  
富士桜カントリー倶楽部

# 女性アスリートの「働き方改革」が話題に

近年、『働き方改革』がクローズアップされているが、ゴルフ場でもワークライフバランスを重視し、実施するコースが徐々にだが、増えてきている。

男子プロゴルフトーナメント『フジサンケイクラシック』の開催コース、富士桜カントリー倶楽部（山梨、18H）を運営する富士観光開発（株）では、2018年11月に発足した女子サッカーチーム『FCふじざくら』のメインスポンサーを務めており、アスリートの働き方改革に着手し、正社員として従事して給与を得る『プレイングワーカー制度』を導入し、選手がゴルフ場でも勤務することで話題を呼んでいる。

まずは同CCの概要について触れておきたい。メンバーは約650名で平均年齢は60代半ば。年間の入場者数は約3万人、12月中旬から3月中旬までの約4カ月間が冬期クローズとなっている。入場者の比率としては、メンバーが21%、ビジター79%、入場者の男女比は男性88%、女性12%という構成となっている。

余談だが、入場者の1・5%が20代、6%弱が30代だといひ、若

い世代にもトーナメントコースに来てもらいたい」という底辺拡大への想いから、春やクローズ前にゴルフ場側から『若者応援プラン』の働きかけも行っている。

今号では富士観光開発が取り組む『働き方改革』をメインに、姉妹コース（富士レイクサイドCC、敷島CC）との連動企画や別荘体験、SNSの充実、レストランメニューの注力など、様々な取り組みについて同CCの福田正人支配人に話を聞くことができたので、順に紹介していこう。

### キャディ付きでのプレーが原則 人材不足が深刻な問題

「当倶楽部は皆様ご存知の通り、毎年、フジサンケイクラシックを開催しています。そのような背景もあり、グリーンが非常に難しく、ビジターのお客様が来場しても、なかなかグリーンが読めないという声をよく耳にします。そのため、オールキャディ付きというスタイルは欠かせない部分だと思っています。キャディ教育は、キャディマスター室や支配人が主たる教育者として実施しています。他部署の従業員や正キャディを打ち手と

して行っています。これにより、打ち手となった正キャディのフォローアップの教育につながったりもしています。新人の中には問題意識やキャディとしての適性が高く、入社後に「トーナメントキャディになりたい」というキャディもいますが、入社1年目は出さず、トーナメント専用の教育を別途行い、翌年から送り出すようにしています。トーナメントを経験すると意識も高くなり、お客様との会話も広がり、成長を感じますね。また、キャディがゴルフをすることでお客様の目線にも立てるのと、秋やクローズ前の閑散期には、プレーすることを推奨しています。

しかし、これは山梨県全体に言えることなのですが、例えば高校を卒業しても県内より県外で就職するという傾向が多いようです。地元だけでなく、手を広げて全国



富士楼CCの福田正人支配人

的にアピールしてキャディを募集することも考えていますが、なかなか厳しい状況が続いていますね」

なお、現在、正キャディは31名、アルバイトキャディも含めると約40名でその日の組数にもよりますが、常時この人数が出動しているという。富士山が世界遺産に登録されてから、特にこの地域はインバウンドの観光客が増えたという。地元ではなく、外からの資本でホテルが多数建設された影響で、人材雇用が喪失されてしまい、ホテルに流れることも少なくないそうだ。

そんな中、同CCでは人材不足



フジサンケイクラシックでも有名



スパイクを脱いでも稼げるチーム「FCふじざくら」

解消がメインの目的ではないが、キャディの雇用を確保する取り組みを実施しているので、詳しく紹介していこう。

**プレイングワーカー制度の導入 人生キャリアの形成を**

今や女子サッカーは、なでしこジャパンの活躍などで、メジャーになりつつあるスポーツだ。プロのサッカー選手になりたい、活躍したいと考える女子選手も増えている。しかし、プロゴルフファーク様、プロとして食べていける選手はごくわずかなのは言うまでもない。現役時代の収入や引退後のキャリアを考えると、選手になることを不安視する声も少なくない。



FCふじざくらの選手たち

そんな状況を打破すべく、女性アスリートの「働き方改革」を掲げて立ち上がった企業が、同CCを運営する富士観光開発(株)だ。同社は、山梨県鳴沢村を本拠地に2018年11月に誕生した女子サッカーチーム「FCふじざくら」のメインスポンサーを務めている。

アスリートの働き方改革に着手した「プレイングワーカー制度」という、ひととき貴重な制度を導入し、仕事とサッカーの両立を目指す考えだ。

「ゴルフ場事業だけでなく、レジャー事業や不動産事業など、様々



先輩キャディは教育することで自分への気付きにもつながる

な事業を展開する富士観光開発が2019年に創立60周年を迎えました。その際、新しい人材の雇用を考えた未来へのプロジェクト、として選んだのが女子サッカークラブの運営でした。世界で通用するプレイングワーカーを育てるチームになる。プレイングワーカーは競技でも一流、社会でも一流であれ」というコンセプトのもと、所属選手はサッカー選手でありながら、富士観光開発が展開している、いずれかの事業に正社員として従事し収入を得る「プレイングワーカー制度」を導入しています。しっかりと自分の第二の人生を送れる

るようにチームの運営をしていくという考えです。FCふじざくらとして、なでしこリーグへの昇格を目指す一方で、クラブの母体となる富士観光開発の正社員としても平日の週4日に7〜8時間勤務し、その後2〜3時間サッカーの練習するというスタイルで、土日は練習試合や公式戦を行ったりしています。

現在、FCふじざくらの選手19名中、8名が当倶楽部でキャディとなつていきます。またキャディ業務だけでなく、レストランやフロント、マスター室でも働いてもらっています。プレイングワーカーとして、姉妹コースにとどまらず、富士観光開発が展開する富士緑の休暇村や、ふじてんリゾート（スキー場）などのレジャー事業にも配属させ、様々な業務を経験することで、彼女達自身のスキルアップにもつながっていると確信しています（福田支配人）

一般的にどのスポーツも、性別に限らず、実業団やクラブチームに所属している選手は、日中はスポンサー先に振り分けられ、おおよそ数時間程度滞在しているだけ、というケースも多い。しっかりと

仕事をこなしているのか」と聞かれたら、正直？なところがあるだろう。これだと、結局サッカー選手を終えた後のキャリアは何も築けない。

FCふじざくらの選手選考では、正社員としての資質も見極めたといい、プロのサッカー選手としての活躍はもちろん、正社員としても他の社員同様にそれぞれの職場での仕事ぶりもしっかり評価するという。まさにプレーと仕事の両立で総合評価するというものだ。競技と仕事を別に考えるのではなく、プロの選手としてサッカーを続けるために働く、のではなく、働きながらプレーすることを意味



レストランも活躍の場に

する「プレイングワーカー」の本質は、選手自身の人生キャリアの形成にあるのが最大の特徴。

この取り組みにより、ゴルフ場側としても雇用の確保ができるのは、大きな強みとして挙げられるだろう。なによりゴルフ場と選手、相互の信頼関係なくして、プレイングワーカーは存在しない。スバイクを脱いだ後に、どんな就職もできるような支援をする」というのがFCふじざくらの考えだ。元Jリーガーの菅野将晃監督、コーチを含め、皆同じ気持ちで取り組んでおり、今後なでしこリーグ二部に昇格したとしても、同じ条件で進めていく予定だという。



キャディ業務を頑張る選手たち

なお、現在の公式のスポンサー（パートナー企業）は約120社で、賛助会員が95社、計220社近くの企業に支えられているという。下部リーグとしては異例の多さで、これも富士観光開発が導入した「ブレイングワーカー」への理解、関心の高さが示していると言えるだろう。

「ゴルフ場のメンバーさんが練習や試合を観に行ったり、差し入れを下さったりするケースも多数あります。選手とメンバーさん間で良い関係が構築できていると思います。選手達もSNSで自発的に広報活動を行っており、単に雇用の創出というだけでなくチームを応援、支援してくれる顧客の開拓にもつながり、会社へ貢献してくれていますし、これらは地域の活性化にもつながると思っております」（福田支配人）

**二つの姉妹コースとの連携企画にも注力し、リゾート感を演出する別荘体験も**

次に同CCの他の取り組みについても紹介していこう。姉妹コースの富士レイクサイドCC、敷島CCとの連動企画として、毎年8

メンバー	9,734円	メンバー	12,670円	メンバー	7,200円
ビジター	15,000円	ビジター	28,500円	ビジター	11,000円

月に『FUJIKAN 3 COURSE チャンピオンシップ』を開催している。

「この企画は、3ゴルフ場の親睦コンペとして15年前から実施しています。プレー自体はそれぞれご同伴の方同士でプレーしていただき、スコア集計の際にくじ引きを行い、ペア戦での成績集計で実施しており、メンバー様から好評です。当初は3ゴルフ場でまわして行っていました。やはりトーナメントコースということで、ここ4年間は毎年、当倶楽部で開催しています。

また、富士レイクサイドCCに隣接する場所に、リゾート感を演出する富士桜高原別荘地を不動産事業として展開しています。これは1962年に分譲を開始し、50年以上の歴史を誇る富士北麓を代

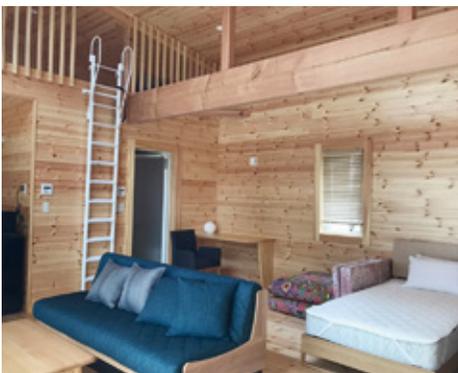
**3コースの親睦コンペ「FUJIKAN 3 COURSE チャンピオンシップ」**

表する別荘地です。この別荘地内に今年の3月に、別荘体験ができる新しい別荘ライフの提案として『タイニーハウス』という、ゲストコテージを5棟オープンしました。主に3ゴルフ場のメンバーさん（メンバー紹介も含む）が利用

できます。多くメンバー様に改めて『富士桜高原の森暮らし』の魅力を感じていただきたい、という思いがあります。またこの施設は主に富裕層をターゲットとしており、利用をきっかけに富士観光開

発が手掛けている不動産の販促、そして購入につながりたいと思っています」（福田支配人）

3ゴルフ場やこのタイニーハウスに限らず、富士観光開発が展開する施設のさらなる認知度向上のため、富士桜CCでは、SNS（Facebookページ）に非常に注力しており、現在は「いいね！」が1万7000以上ある。これを生かし、様々な視点からの投稿を行っており、更新頻度も内容のクオリティも高い。その他、レストランメニューやフジサンケイクラシックに対しての取り組み、コース管理でのこだわり等は、誌面の都合で次号で詳しく取り上げる。



別荘体験ができる「タイニーハウス」